

情報社会論	1～4 年	教 授 栗原 信征	D・M
-------	-------	-----------	-----

1. 授業のねらい・概要

インターネットの普及を背景に、新たな情報社会が生まれている。マスメディアの情報の受け手だった読者・視聴者が、情報を発信することも一般化してきた。情報の発信者と受け手の境界がなくなりつつある。メディアは長い歴史を経て、新聞・雑誌などの活字メディア、ラジオ・テレビなどの電波メディアが発達してきた。日本では新聞が登場してから 100 年以上経ち、テレビも 60 年以上が経過した。これに加え、インターネットが登場し、情報革命といわれるまでの影響力を持ち始めた。日本でインターネット元年といわれたのは 1995 年であり、まだ 20 年しか経っていないが、いまや 1 億人が利用する巨大メディアに育った。

この影響は一気に広い分野に及び、いわゆる ICT（情報コミュニケーション技術）革命が起きている。この革命が社会にどのような影響を与えているかを様々な分野で検証する。同時に今後その変化が社会を変えていく可能性について検討する。マーケティング、メディア、一般の人の生活、企業など具体例をあげながら、社会がどのような方向に向かおうとしているかを検討したい。情報社会には当然明るい面だけではなく、影の部分もある。その点については科目「情報社会と情報倫理」で詳しく触れているので、この講義ではポイントの指摘にとどめる。

2. 授業の進め方

各分野における情報化による大きな流れた変化を把握したうえで、今後 ICT の進化によってさらにどのような変化が起きるかを見ていく。インターネットの画面や配布資料を活用する。

3. 授業計画

1. 情報社会とは	8. 医療・健康と ICT
2. 日本の情報化の歴史	9. 金融マーケットと ICT
3. 消費行動の変化	10. 政治・地域社会・自治体の変化
4. 食の変化	11. マーケティングの変化
5. 住・家電の変化	12. 犯罪とネット社会
6. 雇用・就労の変化	13. 車社会と ICT
7. 教育の変化	14. 情報保護と情報公開
	15. 情報社会の課題

4. 到達目標

自分の生活と関連付けて、情報社会の変化を認識する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

情報社会の変化に絶えず気を配り、見つけた変化について随時発表できるようにする。

6. 成績評価の方法・基準

授業中の発表などの参加状況と期末試験の結果を合わせて、総合的に評価する。成績は総合点で 80 点以上を A、79～70 点が B、69～60 点が C、それ以下を D とする。

7. テキスト・参考文献

参考文献：NTT データシステム科学研究所『インターネット社会の 10 年』、中央経済者、2006 年
古藤泰弘『情報社会を読み解く』学文社、2011 年

8. 受講上の留意事項

インターネットを日常的に利用していると思うが、それを注意深く見てみるといろいろな変化が起きている。自分の生活全体を見まわして、ICT による新しい変化がないかを考えてみよう。